

第4回

伯耆町が進める

「保小中一貫教育」とは

—子ども達の「15歳の出口」の姿を見通して

前回は、「人間力の育成」に向けて「自立・協働・創造」の3つの力を計画的に育てることの必要性についてお知らせしました。今回は、「伯耆I学習」についてお伝えしたいと思います。

「総合的な学習の時間」とは？

現在、小学3年生から中学3年生までの7年間の教育課程で、「総合的な学習の時間」が週に2時間（中学1年生のみ週1・4時間）設けられていることをご存知でしょうか。ただし、学校ごとに独自の名称がある場合もあり、児童・生徒は「総合的な学習の時間」と言われてもピンとこないこともあります。

この総合的な学習の時間（以下、総合的な学習）が創設されたのは、平成10年の学習指導要領改訂のときでした。その趣旨は「各学校が地域や学校、児童の実態等に応じ、横断的・総合的な学習など創意工夫を生かした教育活動を行う」というものです。

つまり、総合的な学習の時間には他教科のような教科書はなく、学習内容は地域の実態や児童・生徒の興味、関心に応じて学校独自に設定しています。また、「横断的・総合的」とは、各教科で習得した知識や技能を活用しながら、体験学習や問題解決学習に取り組み、自ら学び、自ら考える力などの全人的な「生きる力」を育成するということです。

「伯耆I学習」とは？

今回の「保小中一貫カリキュラム」の作成の中で、総合的な学習にも一貫性を持たせるように計画しています。各学年とも総合的な学習にいくつかの単元（複数時間の学習のまとまり）がありますが、各学年の2単元分を伯耆町共通単元として設定し、町内の全学校で取り組んでいきます。それらの単元を総称して「伯耆I学習」と呼んでいます。

Iに込められた3つの思い

「伯耆学習」とせずに「伯耆I学習」としたのは、「I（アイ）」の文字に様々な意味を込めているという理由があります。

一つ目は、「伯耆愛」の「愛」です。伯耆愛、すなわち伯耆町の良さに気づき、大切に守ろうとする態度です。二つ目は、「自立・協働・創造」に関わって育てたい様々な力のうち、図にあるような「I」を頭文字とすることをまとめています。三つ目は、自らを振り返り、自らの生き方を模索するという意味の英語の一人称「I」です。

以上のような意味を込めて、「伯耆I学習」は次のようなねらいをもっています。「伯耆町を学び、よりよい伯耆町を創造するために、地域における自己の生き方との関わりで考え行動していく児童・生徒を育成する」。

今回は、「伯耆I学習」において、現段階でどのような学習が想定されているのかについて、より具体的にお伝えします。

「伯耆I学習」としての取組



【問い合わせ先】教育委員会事務局 総務学事室 電話62-0927